

ケア付き就労利用者の意識とプロフィールに関する調査結果の概要

本調査は、ふるさとの会でケア付き就労に従事している利用者が具体的にどのような支援を必要としているのかを明らかにするとともに、「四重苦」を抱える高齢者への支援の可能性を探ることを目的として実施したものである。平成 22 年度は、調査票の設計およびケア付き就労利用者等 40 名を対象とした予備的調査を実施した。本結果は、予備的調査の結果概要を示したものである。

①ケア付き就労利用者のプロフィールと就労状況

ケア付き就労利用者のプロフィールは、男性が 9 割、50～60 歳代の利用者が 6 割近くを占める。ただし、20～30 代の若い世代も 3 割近くを占めており、年齢層は幅広い。現在の住まいは、自宅や民間施設（宿泊所等）利用者が多いが、緊急就労居住支援事業や社会福祉推進事業の借り上げ住宅利用者が約 3 割を占める。

経済面では、生活保護を受給している利用者が約半数を占めるが、受給者の 2 割程度は生活保護受給をやめたいと考えている利用者もみられる。

就労状況では、ふるさとの会で担当している業務では「清掃」や「配膳」、「生活支援（宿泊所の日勤・夜勤等）」、「職員の補助業務（緊急就労・居住支援事業）」などが中心であり、約 4 割の利用者は 1 か月あたりの収入額が 10 万円を超えている。

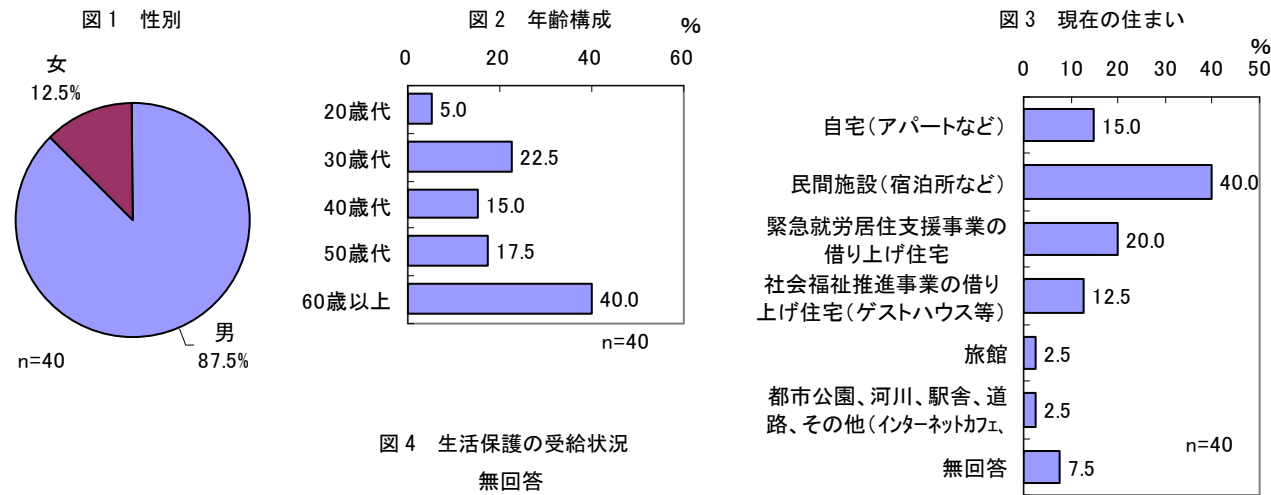


図 4 生活保護の受給状況

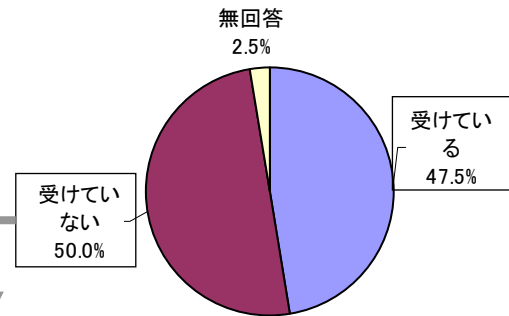


図 5 今後の受給意向 <未受給者>

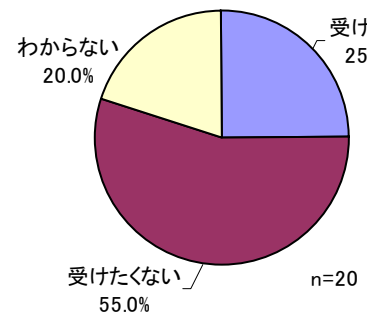


図 6 今後の受給意向 <受給者>

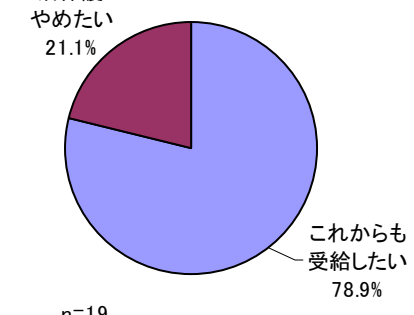


図 7 ふるさとの会での業務内容

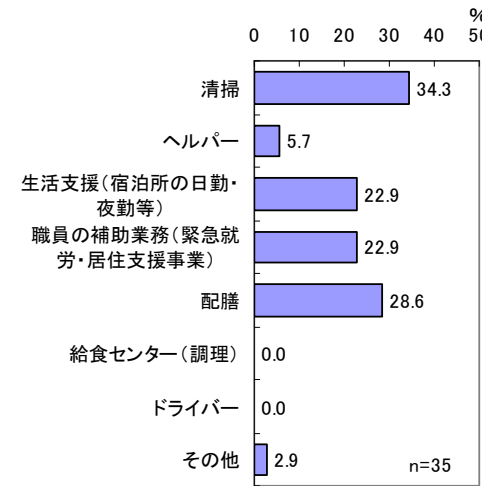


図 8 1 か月あたりの収入

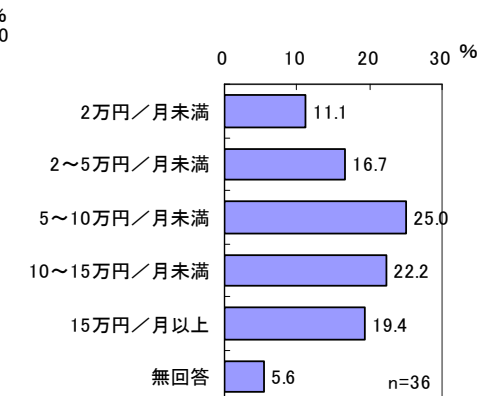
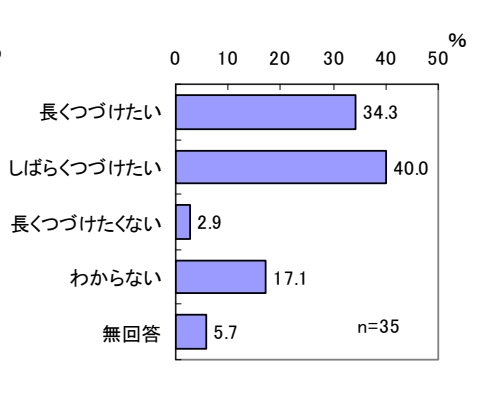


図 9 仕事の継続意向



②ケア付き就労利用者の抱える困難さと、それに対する支援

健康状態に関して何らかの疾病を抱えている利用者は約 2 割を占める。また、読み書きに苦労している利用者も一部おり、それらの利用者に対しては、わかりやすく、ゆっくり、再確認するなど職員によるコミュニケーション面での配慮がなされていた。職員へのインタビューからは、利用者の多くはメンタルな面での問題を抱えていたり、他者との関係性の持ち方に困難を抱えていることが明らかとなった。

図 10 疾病既往歴の有無

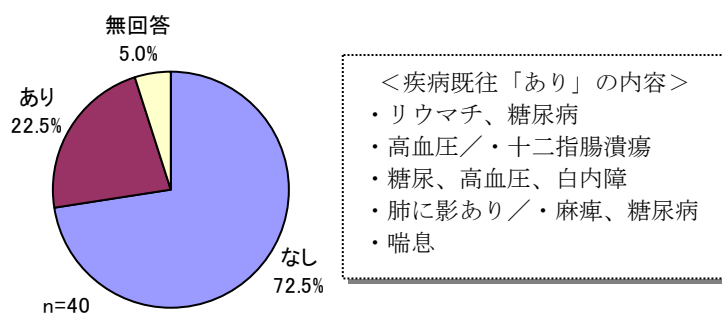
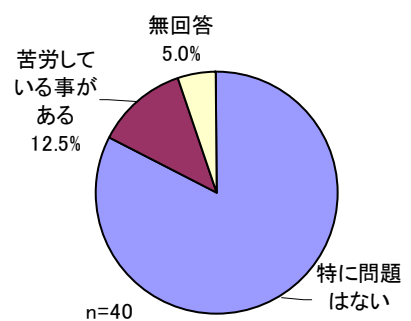


図 11 読み書きの苦労



◎利用者へのアプローチ（職員インタビューより）

- ・メンタルな面で問題を抱えている人の場合、環境整備が重要。人間関係がつかれずに閉じこもってしまうことが多い。まず人間関係づくりをして、それから業務に就いてもらうようにしている。
- ・緊急雇用の利用者を見てみると、生育歴の過程で既に関係が希薄で人との関係の作り方がわからない人が多い。そのため、自分のやり方で関係性をつくってしまう。職員との信頼関係ができれば次のステップに進めるが、緊急就労では期間が半年間しかないのではなかなか難しいところ。
- ・利用者さんはいつもその人にとっての「危機感」を持っている。例えば、事故を起こしてはいけないとか、自分が本当に助けて欲しいときに助けてもらえるか、とか。なので、単に言葉かけをするだけではなく、何かあったら本当に走っていく、そのことで信頼関係をつくる必要がある。
- ・「はるかぜ」の利用者は、30代～60代の女性5名ほど。うち4名が就労している。精神、知的障害の方、疾病を抱えている方など。女性特有なのか、自分を特別視してほしい、という気持ち強い。職員と自分以外の誰かが話していると疎外されているような気がするという人が多いので、なるべくミーティングを開く、個別の時間を持つような工夫をしている。

③ケア付き就労利用による生活の変化

ふるさとの会を利用することで利用者の約半数は、精神的な面（落ち着いた、安心できた、余裕ができた等）や生活行動面（生活習慣、規則正しい生活、清潔の保持等）、意欲面（仕事に対する意欲、前向きに考えられる等）などの変化があったと回答しており、住まいや仕事の確保が利用者の生活行動や意欲を高めている実態が明らかとなった。

図 12 生活の中での変化の有無

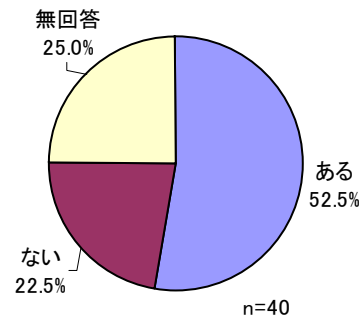
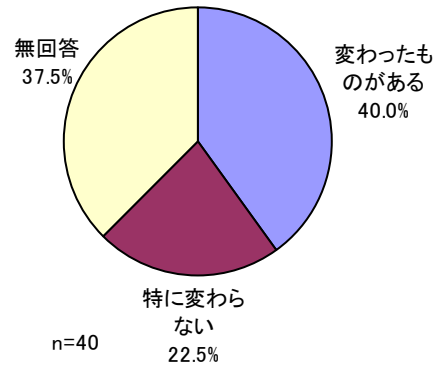


図 13 生活不安の変化



<生活の中で変化したこと>

- ・生活が安定するようになった
- ・落ち着いた。相談相手がいることで安心できた
- ・規則正しい食生活、仕事に対する意欲
- ・仕事が変わったのでリズム／生活習慣が戻ってきた
- ・予定を組むことができるようになった
- ・人間関係が充実してきた。気持ちに余裕ができた
- ・清潔を保てるようになった。前向きに考えられる。
- ・ヘルパーの仕事をするようになり、生保以外の人と接する機会が多くなったので、向上心が出てきた。
- ・早く仕事をしてアパートに移りたいと思った
- ・団体生活。他の人間と仲良く生活する（精神の安定していない人と）
- ・働こうという気が上がってきた

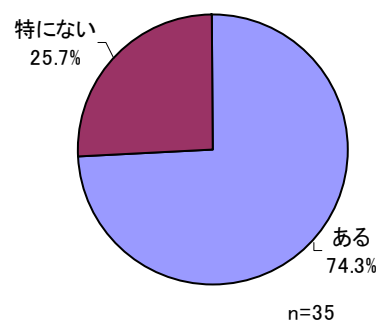
<変化した内容>

- ・安心感、一人じゃないという安心感がある
- ・安定してきた／落ち着いた
- ・生活が安定。不安感がなくなった。
- ・お金の心配をしなくなった
- ・多少ながら人並みの生活ができる
- ・住むところがあって生活習慣が戻った
- ・住居と食事は確実に確保された（精神的に余裕ができた、前向きに）
- ・人と人のコミュニケーションを多く取るようになった。
- ・住まいについての不安や漠然としたものの不安が、人に話すことによってなくなった

④「四重苦」を抱えた高齢者への支援業務に対する意識

ふるさとの会での仕事に対して、回答者の 7 割以上が「仕事をしていて楽しいことがある」と回答しており、特に支援対象である高齢者との気軽な会話や感謝の気持ちを伝えられることが利用者の気持ちの励みになっていることがうかがえる（エンパワメント）。また、一部には仕事の枠を超えて高齢者を気遣う利用者の姿もみられ、仕事としての支援を入口としながら、利用者と高齢者が互いに支えあう関係が生まれていることも明らかとなった。

図 14 仕事をしていて楽しいことの有無



<仕事をしていて楽しいこと>

- ・ありがとうと言われたとき
- ・利用者にお礼を言われると、やっつけてよかったと思う
- ・わきあいあいしている。いろいろな人がいて楽しいです
- ・会話ができること／親しい人と話をしているとき
- ・入居者が気軽に声を掛けてくれる
- ・毎朝挨拶ができる。一人ではないから、寂しくないから
- ・室内清掃を一人でしている為やりがいがある
- ・職場がきれいになること
- ・以前ほどではないが、自分の子供達と逢えるのが楽しみ

◎「仕事をしていて楽しいこと」への回答に対して（職員インタビューより）

- ・支援する側ということで、肩肘貼らない方がいいと思っている。人から頼りにされることで、自分の存在を感じられる場でもある。
- ・もちろん全部ではないと思う。ただ、支援している対象は、いわゆる「弱者」（高齢、要介護）なので、肩肘貼った関係ではなく、話も気軽にできるのだと思う。そこが安心なのではないか。
- ・休みの日にも職場に顔を出す人もいる。あるいは入院先にお見舞いに行ったり。職場の利用者さんから頼りにされることが、お金ではなくうれしいのだと思う。これまで人から直接（感謝の言葉を）言われることがなかった。この仕事は、接客業と違って長期的にその人と関わる仕事。よくわからない利用者だと 1 時間くらい、話につきあわせたりしている。

⑤ケア付き就労利用者のニーズ

相談相手がいる利用者では、生活や不安の変化を意識している割合が高く、また仕事の楽しさを感じている割合も高い。つまり、その利用者にとって信頼できる相手がいることが、利用者自身の意識（客観的な視点や前向きな姿勢、意欲等）に深く関わっていることが推測される。

図 15 生活不安の変化の有無
<悩み事の相談相手有無別>

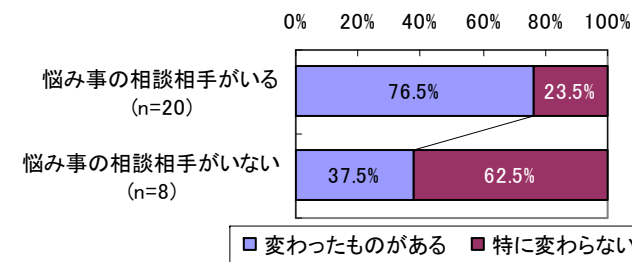
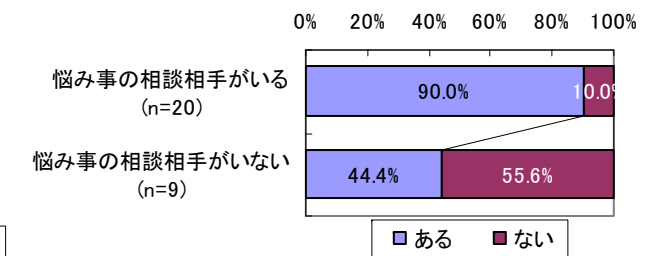


図 16 仕事をしていて楽しいことの有無
<悩み事の相談相手有無別>



今回の調査対象者は、家族との関係性も弱く、また職場など身近な集団内での関係性（距離感の取り方等）を維持することが困難となっており、ふるさとの会を利用するに至った利用者も少なくないと考えられる。このような他者との関係性が脆弱化している利用者に対して、ふるさとの会職員は信頼関係を構築することが第一のステップであると考えて支援を行っている。上記結果をみても、職員と利用者の信頼関係が構築できることによって、現実を客観的に捉えられたり、前向きに考えることが可能となるなど、信頼できる他者の存在は利用者自身の意識や考え方にプラスの影響を及ぼしていると考えられる。

また、職員との信頼関係をベースとして、利用者は自分よりも困難を抱える高齢者への支援に関わることで自らの役割や仕事に対する価値（あるいは楽しみ）を見出している（第二のステップ）。職員との信頼関係、高齢者との関わりを通して、利用者の自立生活に対する意欲が喚起されているとも考えられる。

自立生活に向かうためには、自立への意欲を持つことが第一のステップであるが、その意欲は他者からの承認や信頼関係という基盤のもとでつくられる。この信頼関係を築くことこそが利用者が必要とする根本的なニーズではないかと考えられる。